

千葉県流山市における今上落の歴史の変遷と活用方策に関する研究

—千葉県流山市本町地区および今上落の歴史の変遷について—

日本大学 正会員 ○田島洋輔 日本大学 正会員 岡田智秀 日本大学 非会員 落合正行
日本大学 非会員 塩谷真由 日本大学 非会員 天海拓生

1. 研究目的; 千葉県流山市の歴史は、江戸川とのつながりが深く河川舟運の発達に伴い加村河岸や流山河岸を中心にまちの賑わいを創出してきた。現在では、「流山本町江戸回廊」と称して、河岸集落の情緒を残す老舗や土倉などの歴史的建造物に加えて、江戸川や今上落等の河川を巡る歴史まちづくりが展開されている。こうした歴史まちづくりを検討する際には、地域の歴史的背景を紐解きまちへ展開するための手立てを検討することが重要となる。しかし、流山本町地区の歴史的街並みや建造物、江戸川に関する史実は既に整理されているものの、今上落に関する史的資料は非常に少なく、その史実も未だ整理されていない。そこで本研究では、近年、地域住民からその利活用が望まれている今上落に着目し、今上落の形成過程およびまちとの関係性について明らかにすることを目的とする。

2. 調査方法; 今上落の形成過程や流山本町地区(図1)の発展過程、それと関わりのある河川および水路の利用状況を捉えるために、表1に示す文献調査と当地区の郷土史作家へのヒアリング調査を実施した。

3. 結果及び考察; 表2は今上落や流山本町地区の発展過程、河川整備・利用状況について時系列で整理したものである。以降は、表2をもとに考察する。

(1) 今上落誕生期(江戸初期); 今上落は、1729(享保14)年に今上村(現野田市今上地区)の後背地にあった湧水や台地からの排水が流れ込んだ遊水池の水を江戸川へ自然排水させるための悪水落としとして造築された。当時、用排水路の建設は地理的要件から村単位での作業では十分ではなく隣接する14ヶ村が連携して、今上村(現野田市今上地区)から江戸川の河床が遊水地よりも低くなる新宿村(現流山市上新宿)までの約5.4kmにわたり整備が進められた。これと同時に利根

川～江戸川間の舟運や布施河岸～加村・流山河岸への陸路搬送(駄送)により流山に賑わいが形成された。

(2) 風除けのための舟運利用期(江戸中期～明治中期); 当時の流山は、舟運や駄送の拠点として河岸を中心に繁栄した(写真1)。これに伴い、江戸川や今上落沿川の加村・流山河岸では船問屋、宿屋などの店舗が発達し、まちに賑わいが創出された。安井氏⁶⁾の所見によると、舟運の往来の場として利用されていた江戸川の支川である今上落は、台風等の風除けの場として三輪野山(現流山市三輪野山一丁目)まで高瀬舟がさかのぼってきたとされ、多くの舟運関係者やその船舶の安全を確保するために今上落を利用していたとされる。

(3) 利根運河整備に伴う暗渠化期(明治中期～後期); 明治中期、蒸気船導入に伴い流山の河岸が最盛期を迎える中、明治20年4月に京橋商工会において利根運河創立協議会が開催され、舟運事業の活性化策の一案として「利根運河(現柏市上利根～現流山市深井新田)」の建設が決定された。江戸川沿いに整備されていた今上落は明治22年に利根運河との交差点とその上下流に併せて724mの暗渠化工事を約2ヶ月間にわたり実施され、悪水を通水するに至った。これに伴い河川搬送が活発化したことで駄送が大きく衰退することとなった。

(4) 和田掘との統合期(明治後期～昭和初期); 明治後期に入ると、利根川大洪水(明治29年9月)や天明以来の大水害(明治43年8月)等の度重なる風水害が江戸川等の河川改修の必要性を高め、大規模な堤防工事が開始された。しかし、大正初期、流山本町地区では河川沿いに河岸集落が広がっており、堤内地に築堤スペースを確保することができなかったことから、加村

表1 調査概要 [筆者作成]

	文献調査	ヒアリング調査
調査期間	平成29年8月1日(火)～9月29日(金)約2ヶ月間	平成29年10月29日(日) 13:30～16:00
調査対象	流山市史、流山市史研究、東葛流山研究などの歴史資料 ^{1)～9)}	郷土史作家 青木更吉氏
調査内容	・流山本町地区の集落の発展過程 ・河川(江戸川および今上落)の河川工事、河川整備の変遷 ・河川(江戸川および今上落)の利用状況の歴史の変遷	・利活用の現状(今上落と地域住民の関わり、今上落の呼称、今上落に対する想い)について ・調査結果の史実確認及び情報提供依頼について



図1 調査対象範囲 [筆者作成]

キーワード 今上落, 千葉県流山市, 歴史まちづくり, 歴史の変遷

連絡先 〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14 日本大学大学院理工学研究科まちづくり工学科 TEL03-3259-0548

河岸より下流側の今上落を堤防用地として埋め立てた。今上落の埋立てに伴い東に並走していた和田堀への流路付替工事が大正9年に行われ、昭和4年に江戸川との合流地点への今上樋門(写真2)および記念常夜灯が建設され現在の流路³⁾となったとされている。

(5)利根運河の暗渠部埋立期(昭和初期~中期);昭和初期、今上落の暗渠部は地域住民から「むぐり(もぐり)」と親しまれていたが、度重なる風水害の対策として、先述した今上落の暗渠部の埋立てが計画されることとなった。昭和22年のカスリーン台風以降、利根運河堤防以北の今上耕地の悪水を江戸川に排水する対策工事として利根運河北側堤防沿い(現流山市深井新田地先)に排水口が新設された(昭和23年)。それに伴い、今上落による排水の必要が無くなり、昭和26年より利根運河との交差部の暗渠撤去・埋立工事に着手した。こうした経緯のもと現在の今上落上流部は埋め立てられ、その面影は市内の旧和田堀のみに残っている。

4. おわりに;昭和30年代に大正時代の約1.5倍の大きさとなる江戸川堤防が完成して以降、地域住民は江戸川を大川、今上落を小川(コガワ)と呼び親しんで

きた。特に、今上落は水質も良好で生活用水や子供の遊び場として利用されてきたことから、流山本町地区住民の生活に身近で密着していたと推察される(写真3)。前述したとおり、現在、今上落は和田堀に付け替えられたにも関わらず、案内看板や地域呼称等に「今上落」の名が使用されており、和田堀の名は見られない。さらに、史的資料の既述も「今上落堀」や「今上落し」等、名称表現が統一されていない。しかし、流山本町の地区住民の根強い愛着を考慮すると、今上落の史実をさらに明確にするとともに、市民団体や郷土史研究家、流山市役所等と連携することでまちづくりへの利活用策を具体化していくべきであると認識する。

参考文献:1)青木更吉:「流山の河岸の所在を特定する」,pp.1~26,流山市史研究第22号,2014/2)恩田家文:「乍恐以書付奉申上書」(流山市立図書館・博物館提供資料),1492/3)松丸明弘:「流山の河岸について(3)」,pp.61~82,流山市史研究第12号,1995.3/4)西村喜美江:江戸川歴史年表,pp.175~181,東葛流山研究第10号,1991.8/5)横村香津子:今上落堀の変遷,pp.62~67,東葛流山研究第12号,1993.11/6)安井新治:「流山の商業-江戸末期から明治初期にかけて-」,pp.98~124,流山市史研究第3号,1985.11/7)一色信夫:「春山寺・金栗院の地藏菩薩と江戸川土手の記念碑について」,pp.52~59,流山市史研究第21号,2012.3/8)奥木利一:記録としての写真,pp.38~39,吉野誠の世界(流山市立図書館・博物館提供資料),2003/9)山形紘:「流山近代史」,pp.288~293,流山市史通史編II,2008.6

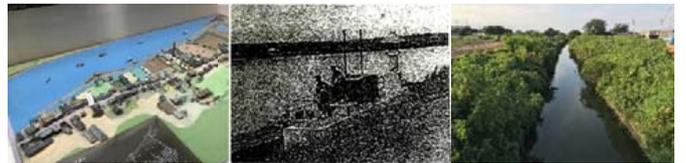


写真1 明治期の流山と今上落 写真2 昭和初期の今上樋門 写真3 新川耕地周辺の今上落 (流山市立博物館展示) [筆者撮影/撮影日:2017.8.27]

表2 今上落の発展過程および周辺のまちや河川・水路の整備・利用状況 [筆者作成]

期	年代	今上落の形成過程	周辺のまちや河川の整備・利用状況	今上落およびその周辺地域の発展状況				
誕生期	1729年(享保14年)	・今上村(現野田市今上地区)の遊水池の悪水落として今上落を設置(今上村~新宿村約5.4km) ²⁾	●○利根川~江戸川の舟運ルートが発達し、利用される ¹⁾ ●利根川~江戸川ルートの濁水による不通等により布施河岸~加村・流山河岸の駄送りが始まる ¹⁾	【凡例】 江川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 橋梁				
	江戸初期	・流れる2本は矢野河原の渡しへ行く道(現在の富士橋あたり)で合流し、南へ伸びていた ¹⁾	●加村河岸は今上落を挟むように発展 ¹⁾ ●北に加村河岸、南に流山河岸が存在 ¹⁾ ●寛政年間~駄送りの最盛期を迎える ²⁾ ●布施から駄送られた物資は加村河岸から江戸へ送られていた ¹⁾ ●河岸の周辺に多くの船問屋が広がる ^{1),3)}					
舟運利用期	1789~1861年江戸中期		●人員や物資輸送を中心とした蒸気船の着く河岸があった ¹⁾	※青木 ¹⁾ によると、八つ橋河岸・万上河岸・蒸気河岸等、流山付近の河岸を包括して「流山河岸」と呼んだとされる				
	明治20年	・利根運河の整備に伴い、今上落との交差部とその上下流724mの今上落部分の暗渠化計画を策定 ²⁾						
	明治22年	・今上落の暗渠化工事に着手 ²⁾						
	明治23年	・工事期間2ヶ月を経て1月末に今上落の暗渠工事が完了 ²⁾	●○利根運河の完成後、利根川から江戸川の舟運ルートが確立され、河川舟運が最盛期を迎え、駄送りが衰退を始める ¹⁾					
暗渠化期	明治29年	・暴風雨が起きた際、今上落には風を避ける大小の船が並んだ ¹⁾	●利根川に大洪水の発生 ³⁾ ●大洪水により破堤が多く、運河の堤防崩壊 ⁴⁾	【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道				
	明治30年	・今上落は和田堀の約2倍の規模があった ¹⁾						
和田堀との統合期	明治37年	・今上落排水路構築、蒸気排水機を設置 ²⁾		【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道				
	明治43年		●天明以来の大洪水の発生 ⁴⁾ ○河川改修の必要性が高まり事業が進む ^{2),5)}		【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道			
	明治44年	・今上落樋門新設(現利根運上流側の野田南部排水機場) ⁵⁾	●江戸川改修工事(利根運河堤防、今上落樋門構築)の事業化 ²⁾ ●県営整備鉄道野田線が営業開始(柏~野田間14.3km) ⁴⁾			【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道		
	大正初期	・堤防用地として今上落の一部(旧加村河岸より南側)の埋立て工事が開始 ⁶⁾	●大正の堤防工事が開始 ⁶⁾ ○江戸川沿いには多くの舟運事業者の船が航行、仮泊していた ⁶⁾ ○県営流山軽便鉄道開通(流山~馬橋間5.7km) ⁴⁾ により舟運事業者が衰退し、河岸の機能が失われる ¹⁾ ●大正期の堤防は今上落の西側に築かれた ¹⁾ ●第一回耕地整理事業 ⁷⁾				【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道	
	大正9年	・今上耕地整理事業が行われ今上落の一部が東遷され、和田堀と一本化された ^{1),5)}						【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道
	大正13年	・今上落普通水利組合が結成 ²⁾	●陸軍糧秣廠が流山へ移り、糧秣廠河岸が現れる ¹⁾ ●糧秣廠~流鉄の線路を引き込みされた ¹⁾ ●キョーマン流山工場~流鉄線が引き込まれた ¹⁾					
大正14年	・今上落暗渠部の継ぎ工事完了 ²⁾		【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道					
昭和4年	・今上落を一級河川と認定 ²⁾ ・今上樋門が竣工(現流山市流山一丁目地) ⁷⁾			【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道				
暗渠部埋立期	昭和5年	・今上落河川付替工事の完成を記念した常夜灯が建設 ²⁾ ・旧加村河岸より南側の今上落が完全に埋め立てられ堤防用地として活用 ²⁾ 、現在の今上落の形状となる ¹⁾			●加村河岸付近に今上樋門が新設され江戸川の合流点が現在の形となる ¹⁾ ●水門(樋門)ができてから洪水がなくなった ¹⁾ ○水量が豊富で子供の遊び場となった ⁸⁾ ○ドショウや船、ウナギ、シジミなどが採れた ⁸⁾ ●カスリーン台風により利根川の栗橋付近で堤防決壊、濁流が江戸川に流れ込む ⁴⁾ ●キヤ台風により江戸川堤防が決壊 ⁴⁾	【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道		
	昭和17年						【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道	
	昭和22年	・今上落暗渠部の埋立てに先立って排水口を新設(現流山市深井新田地先) ³⁾			●現在の江戸川堤防が完成 ¹⁾ ○江戸川は飲み水として利用されていた ⁹⁾ ●流山で堤防拡張に伴う都市計画が決定 ⁹⁾ ●流山市景観条例および景観計画が策定			【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道
	昭和23年							
	昭和24年				【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道			
昭和26年	・今上落暗渠部の埋立て工事に着手 ⁵⁾		【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道					
昭和30年	・今上落は風呂水や農作業用水として利用していた ^{1),5)}			【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道				
昭和32年						【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道		
現在	・今上落は新川耕地の排水路として活用 ⁵⁾ (写真3) ・昭和4年建設時の今上樋門の裏側の柱が部分的に残っている						【凡例】 河川 水路 河川埋立地 堤防 街区 建物 江戸明治期の建物 緑地 橋梁 流山郵便鉄道	

[凡例]・:今上落の形成過程, ●:河川整備状況, ○:河川利用状況, ■:まちの発展過程